

国際活動



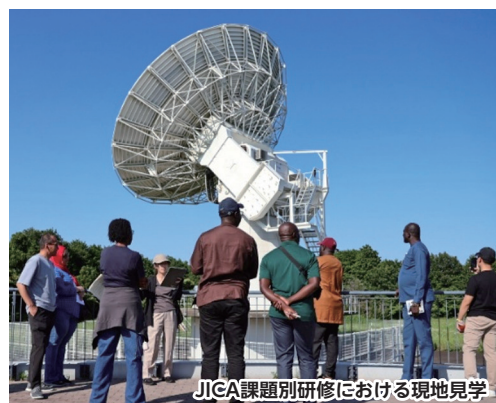
UN-GGIM-AP測地基準座標系作業部会長としての発表



インドネシア地理空間情報庁とのワークショップ



南極での測量作業（第66次隊撮影）



JICA課題別研修における現地見学



ラオスとの電子基準点網にかかる技術協力

測量技術で国際社会に貢献します

国連総会で採択された地球の正確な形とその変化を表す「地球規模の測地基準座標系（GGRF）」の普及や地理空間情報による価値創出を通じた国際的パートナーシップの推進に取り組み、SDGs（持続可能な開発目標）の達成等、国連の活動に貢献しています。

これまでの経験や培った技術を活かし、開発途上国への技術協力や、南極地域観測への貢献等、国際的な舞台で様々な活動に取り組んでいます。



国連本部で開催されたUN-GGIM会合

国連等の枠組における貢献

国連経済社会理事会の「地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会」（UN-GGIM）、「国連地名専門家グループ」（UNGEGN）等に日本政府代表団として参加し、地理空間情報に関する議論に貢献しています。

UN-GGIMでは測地小委員会メンバー、「国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会」（UN-GGIM-AP）では理事や測地基準座標系作業部会の部会長を務めるなど、主導的役割を果たしています。



UN-GGIM-AP第13回総会

開発途上国への技術協力

国際協力機構（JICA）と連携し、電子基準点網の整備・高度運用支援をはじめとする開発途上国の測量・地図整備技術向上のための技術協力を行っています。

1959年から60年以上にわたり、1200人を超える研修員が国土地理院で研修を受け、1964年以降延べ850人以上の国土地理院職員が専門家として海外の地理空間情報当局に派遣されました。



JICA 課題別研修「国家測量事業計画・管理」コースにおける実習の様子

南極観測

関係各省庁と連携して推進される南極地域観測事業へは、1956年の第1次隊から継続して隊員を派遣しています。

昭和基地で実施する測地観測は、地球変形や地球回転を監視する国際的なプロジェクトの一翼を担い、高精度な位置の基準の構築に寄与しています。

また、長年にわたり整備してきた測地情報や地形情報は、地球科学的な現象の解明に貢献するとともに、極地での観測隊の安全な野外活動に不可欠な基盤として利用されています。



昭和基地のGNSS連続観測点（第66次隊撮影）

column

第15回「地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会」に参加

日本政府を代表し、地理空間情報の国際的な管理・活用を推進する「国連地理空間情報管理専門家委員会（UN-GGIM）」に毎年参加しています。2025年8月6日から8日、ニューヨーク国連本部で開催された第15回総会には、77の国・地域等から約350名の専門家が集い、国土地理院からは3名が出席しました。

会合では、SDGsや気候変動など地球規模の課題解決への地理空間情報の貢献が活発に議論されました。「地球規模の測地基準座標系」の議題においては、UN-GGIM-AP測地基準座標系作業部会長として国際的な測地サプライチェーンの構築支援を表明しました。また、地球規模の測地連携拠点（UN-GGCE）や地理空間知識・イノベーションセンター（UN-GGKIC）への継続的な貢献も表明しました。会合に先立ち開催されたサイドイベントにも参加し、各国代表団との対話を通じて、今後の国際貢献に向けた情報収集や国際連携の強化を積極的に行いました。

今後も国際社会と連携しながら、地球規模の課題解決に向けた地理空間情報の取組を進めていきます。



国連本部前にて